

令和2年度 大阪府SDGs有識者会議（第1回）

2020年8月18日

企画室 推進課

2020年度の大阪府の取組み 2020年度SDGs未来都市への選定

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Osaka SDGs ビジョンに沿った2020年度の大阪府の取組み

※新型コロナウイルス感染症の影響等により見直しの可能性があります。

| ビジョンにおける府の役割 | 主な取組 |
|--|--|
| 府民や企業、市町村など、様々なステークホルダーに SDGsを広く知っていただく | 大学や各種団体等との連携した普及啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学、企業、団体向けのSDGs講義 ・ 学生・若者向けワークショップ 企業等他のステークホルダーと連携した普及活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪商工会議所と連携した中小企業向け普及活動 |
| 様々なステークホルダーの取組みをSDGs実現に向けて 相互につなぎ合わせていく | ステークホルダー間の連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 府内市町村や経済界等で構成するネットワークの構築 |
| 府自らも ステークホルダーの一員として、 SDGsに貢献する | SDGs未来都市としての取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪府、大阪市共同提案の実現 ・ SDGs未来都市の拡充に向けた府下市町村への提案支援 |
| ハード・ソフト両面から「 SDGsを具現化した都市づくり 」を進め | 大阪府SDGs有識者会議の設置 <ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的なSDGsの推進に向けた検討 |



**EXPO
2025**
OSAKA, KANSAI, JAPAN



大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト ～2025年大阪・
関西万博をインパクトとした「SDGs先進都市」の実現に向けて～

大阪府・大阪市

■ 将来ビジョン

万博開催都市として、一人ひとりがSDGsを意識し、自律的に17のSDGs全ての達成をめざす「SDGs先進都市」の実現に向け、取組みを進めていく

■ 2030年のあるべき姿

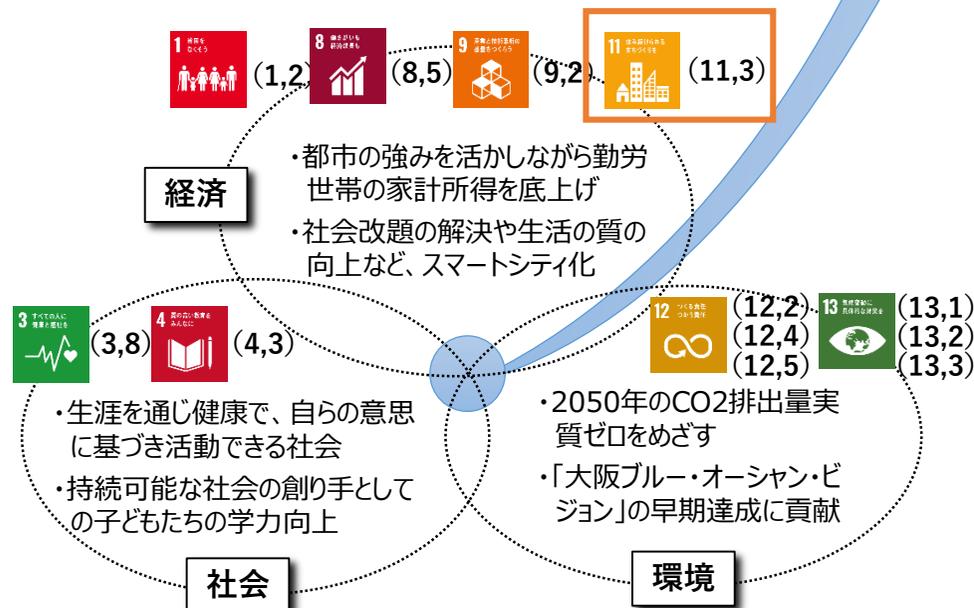
いのち輝く
幸せな暮らし

多様なチャレンジ
による成長

世界の未来を
ともにつくる

■ あるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

17のSDGs全ての達成をめざす中で、とりわけ、課題を克服すべきゴールや世界に貢献できるゴール（重点ゴール）に注力



※ 重点ゴールの分析手法が「第3回ジャパンSDGsアワード」受賞

■ 自治体SDGsの推進に関する取組

あるべき姿の実現に向けた優先的なゴールやターゲットを踏まえ、次の先導的な取組みを実施。様々なステークホルダーとの連携を広げていく。

1 おおさかええまちプロジェクト

・高齢者の介護予防にもつなげる活躍の場を、プロボノによる直接的支援等を通じた住民主体の支え合いにより構築し、生涯を通じ健康でいきいきと暮らし続けることのできる社会の実現をめざす



2 健康寿命の延伸

・10の健康づくり活動「健活10」を活用した健康づくりや、電子マネーが当たる「おおさか健活マイルージアスマイル」の展開などオール大阪での健康づくりの機運醸成と社会環境整備を推進していく



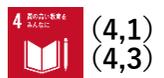
3 子どもの貧困対策

・子どもの将来が生まれ育った環境で左右されることのないよう、子どもの居場所や企業、社会福祉施設等のネットワークの運営で、企業等から物資提供の支援を受ける仕組みづくり等に取り組む



4 府立学校等のスマートスクール化に向けた取組

・教育の質の向上を図るため、知的障がい者支援学校におけるVRを活用したソーシャルスキルトレーニングや、学習履歴や出欠・生活指導状況の可視化など、スマートスクールモデルを確立



5 海洋プラスチックや気候変動の問題解決に向けた環境技術イノベーションの戦略的な促進と普及に向けた取組

・化石燃料に依存しないプラスチック等の循環利用技術など、環境先進技術シーズ調査や、効率的な空調システム実用化など、環境技術のイノベーションの戦略的促進と普及を図る



これら、重点ゴールを中心にSDGsの取組みを進める中で、最も広く様々なステークホルダーに関りがあり、他の自治体等への波及も見込まれ、三側面の統合効果が創出されるSDGsの特性をわかりやすく体現できる事業を、「自治体SDGsモデル事業」として取り組んでいく

【目的】

- 日本で初めて大阪で開催された「G20大阪サミット」の象徴的レガシーである「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン（※）」を世界に先駆けて先導する

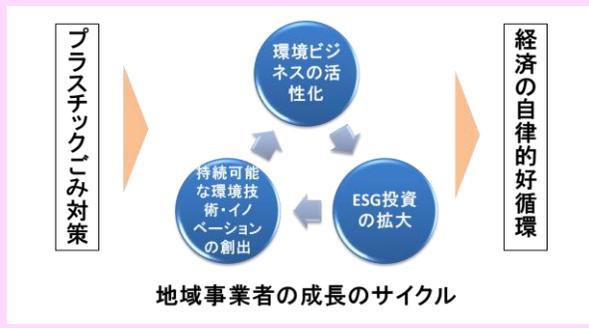
※ 2050年までに海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす世界共通のビジョン

【概要】

- 経済、社会、環境という三側面から、3R（リデュース、リユース、リサイクル）などの普及啓発や、環境先進技術シーズ調査、海ごみの回収などに府域全体で幅広く取り組み、それらの成果が集約された具体的な行動の一つとして、「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」を確立していく

① 経済面の取組

- ①-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ①-2 バイオプラスチックビジネス等推進事業
- ①-3 国連環境計画国際環境技術センター（UNEP-IETC）との連携事業
- ①-4 水・環境技術の海外プロモーション事業



② 社会面の取組

- ②-1 マイボトル・マイバッグの普及促進
- ②-2 公共空間における給水スポット設置事業
- ②-3 大阪湾の環境改善と府民の環境意識向上
- ②-4 環境問題に取り組む若者の育成
- ②-5 資源集団回収活動によるコミュニティビジネスの振興



無料給水機の設置



マイバッグ協定

③ 環境面の取組

- ③-1 海洋プラスチック問題等の解決に向けた環境先進技術シーズ調査普及啓発事業
- ③-2 大阪湾におけるマイクロプラスチック、海洋漂着ごみの実態調査
- ③-3 大阪湾の海ごみの回収事業
- ③-4 ごみの減量と3Rの啓発推進事業
- ③-5 小・中学校での「おおさか環境科」の実施



大阪湾のマイクロプラスチック調査の様子

三側面をつなぐ統合的取組

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業

- ①「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の取りまとめと推進体制の構築
- ②「地域・事業者の連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の確立
- ③モデル事業をはじめとするSDGsの取組みに関する情報発信と国際協力の推進

『「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進事業』の構成

「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現等に貢献するための計画を取りまとめ、推進体制の構築を図り、同計画に基づきプラスチックごみの資源循環を推進するとともに、大阪の取組みを国内外に発信する事業を実施。

① 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」 実行計画の取りまとめと推進体制 の構築

・実行計画の取りまとめ、推進体制の構築

・三側面の統合的マネジメント、
全体最適化



② 「地域・事業者の連携による 新たなペットボトル回収・リサ イクルシステム」の確立

・ペットボトルを「有価物」として
回収・運搬・再資源化

・売却益の地域還元、活性化
※環境省とのモデル事業で効果検証済



③ モデル事業をはじめとする SDGsの取組みに関する情報 発信と国際協力の推進

・自治体SDGsモデル事業の成果等
を国内外に情報発信

・好事例の他地域への広がり
と、途上国の環境問題解決に貢献



意見交換①

コロナ禍における大阪府のSDGsの取組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



<経緯について>

- 昨年度、“Osaka SDGs ビジョン”（以下「ビジョン」という。）を策定。SDGs先進都市の実現に向け、17ゴールのうち、重点的に取り組むゴールや、関連するゴールを整理をおこなった。
- 一方、今回のコロナ禍により、様々な社会問題や課題が顕在化し、社会経済の持続可能性そのものが脅かされ、人々の分断・孤立化・不安が高まる中、人と人とのつながりや支え合う心を取り戻すとともに、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の具体化がまさに求められていると考える。
- 以上を踏まえ、コロナ禍における大阪府のSDGsの取組みの方向性について議論する。

コロナ禍における大阪府の動き

府政運営の基本方針2020【改定版】（案）

基本的な考え方（抜粋）

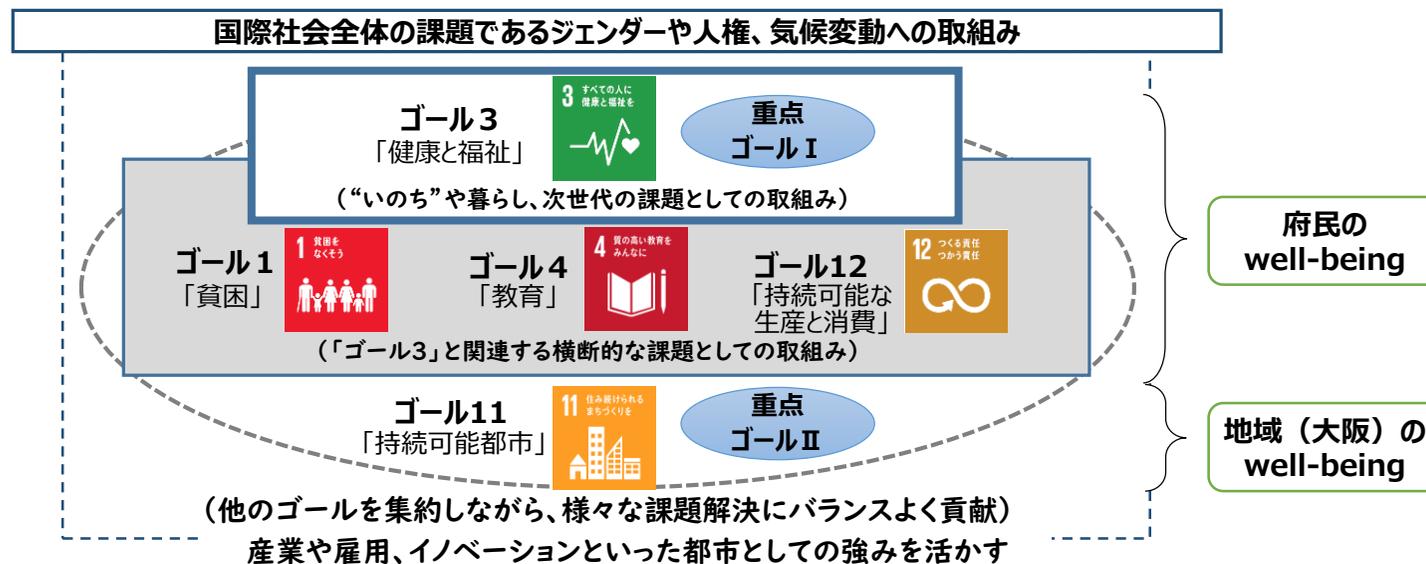
一旦は落ち着いたかに見えた感染者数の状況が日々変化するなど、コロナとの厳しい闘いは長期戦となる。「コロナとの共存」を前提に、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念も踏まえ、真に支援が必要な府民や事業者をしっかりと支えながら、未曾有の危機を乗り越えていく。そして、2025年大阪・関西万博も見据え、コロナを克服した先にある、「世界の中で躍動し、成長し続ける大阪」の未来をつくっていく。

そのために、医療・経済の両面から府民の命を守るため、感染拡大の抑制と社会経済活動の維持との両立を図る。

＜コロナ禍における大阪府のSDGsの進め方＞

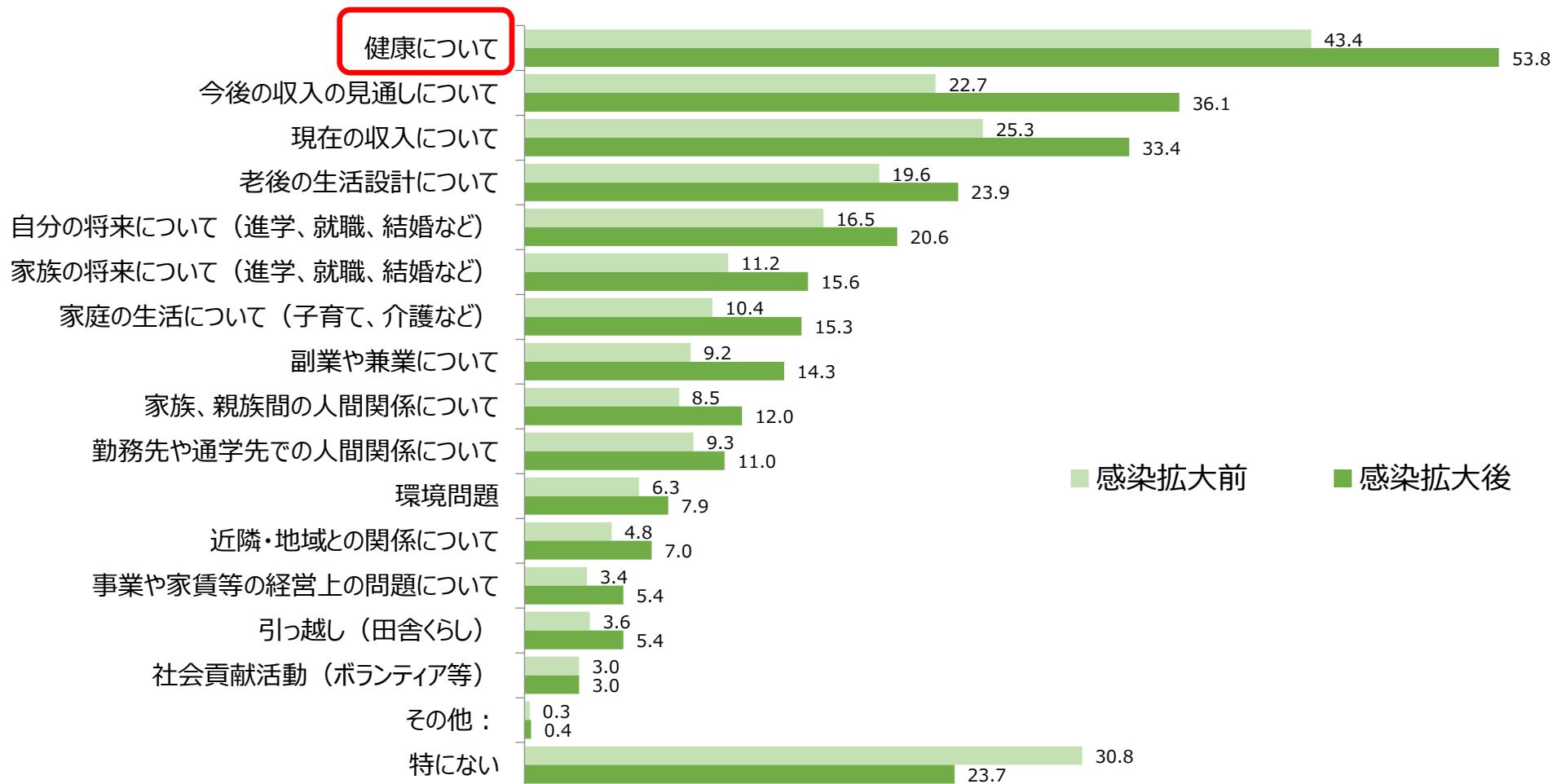
- コロナ禍により、感染症などの健康リスクは全世界にとって大きな課題であることが再認識された。
 - また、感染拡大防止と経済社会活動の両立に向けた行動変容が進んでおり、コロナという災害に負けない**持続可能な社会（コロナとの共存社会）**づくりへの注目は高まっている。
（重点ゴール「ゴール3：健康と福祉」や「ゴール11：持続可能都市」の重要性がさらに向上。）
 - あわせて、雇用対策や教育環境の維持といった**関連ゴール**（ゴール1「貧困」、ゴール4「教育」）の**必要性も増している**。
- ↓
- コロナ禍を機に、積極的に社会変革を図りながら、コロナとの共存社会に向け**重点ゴール及び関連ゴールに沿った取組みを進めつつ、「誰一人取り残さない」というSDGsの理念の具体化や、「府民の豊かさ〔well-being〕」、「大阪の豊かさ〔well-being〕」を追求する。**

重点ゴールと関連ゴール



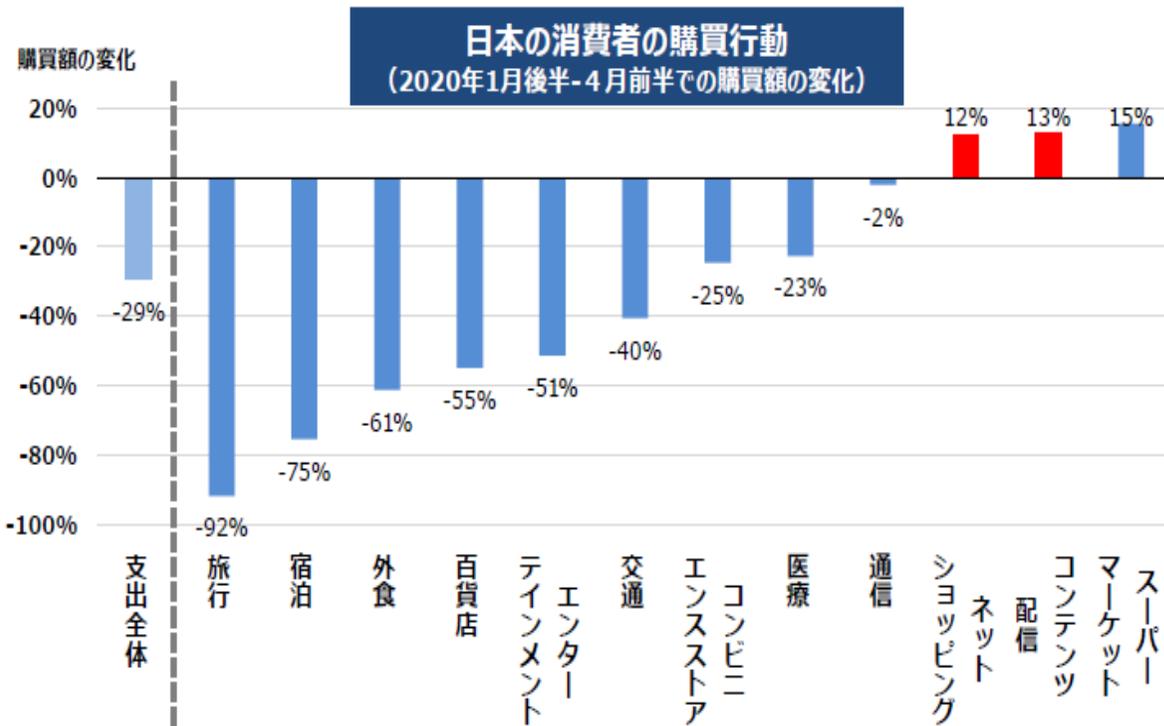
- **健康**は、これまでから関心が高い項目であったが、**コロナ禍を経てさらに高まっている**。

興味関心が高まったものや不安を感じていること



出典：大阪府『新型コロナウイルス感染症の影響に関する府民アンケート』より作成

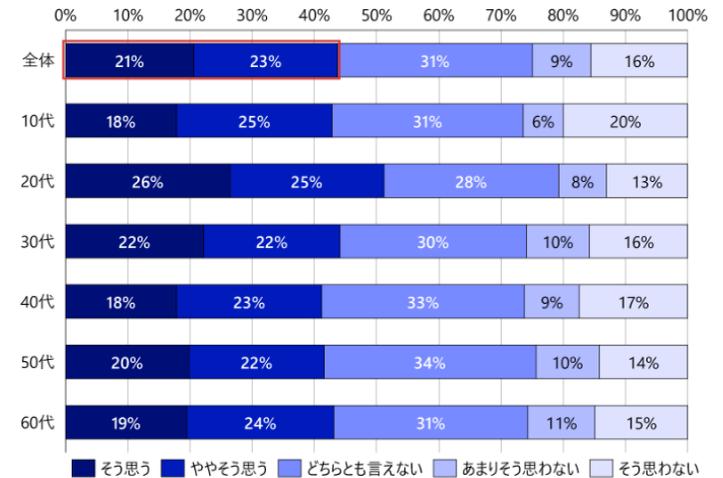
- コロナによる外出自粛の中でも、巣ごもり消費やEC取引（ネットショッピング）、キャッシュレス決済といった**非接触型サービスが増加するなどの行動変容**が起こり、**持続可能な経済活動**を行うようになってきている。



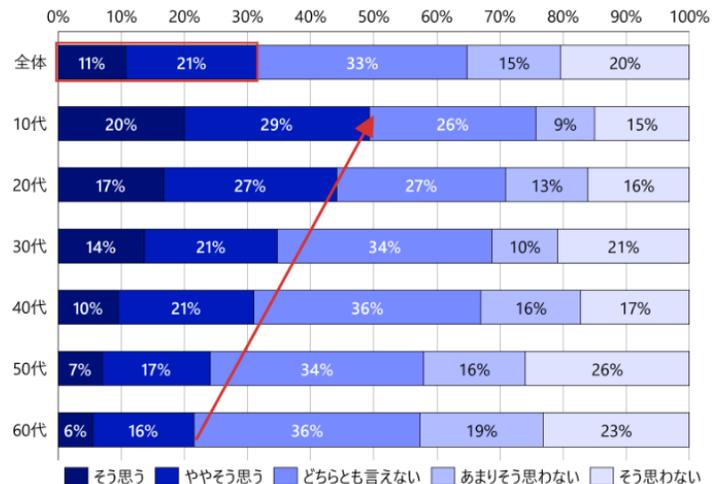
(注) 株式会社ナウキャスト、株式会社ジェーシーピー「JCB消費NOW」(JCBカードの利用者約100万人の購買を集計したデータ)
 (出所) Tsutomu Watanabe「The Responses of Consumption and Prices in Japan to the COVID-19 Crisis and the Tohoku Earthquake」を基に作成。

出典：野村総研『新型コロナウイルス拡大による生活の変化に関するアンケート』

■ サービス利用の変化 【Q：EC（ネットショッピング）の利用が増えたか？】



■ 支払い方法の変化 【Q：キャッシュレスでの支払いが増えたか？】



- 企業も感染拡大防止のためのステークホルダーとして、テレワークや時差出勤の推奨、対面でのコミュニケーションを避けるなど、**持続可能な社会づくりに向けた行動変容を積極的に推進**している。

※本設問は、就業者目線での回答であり、回答者全員が勤務先企業の全体的な取組みを把握しているわけではないこともあり、府内事業者向けの結果とは異なります。

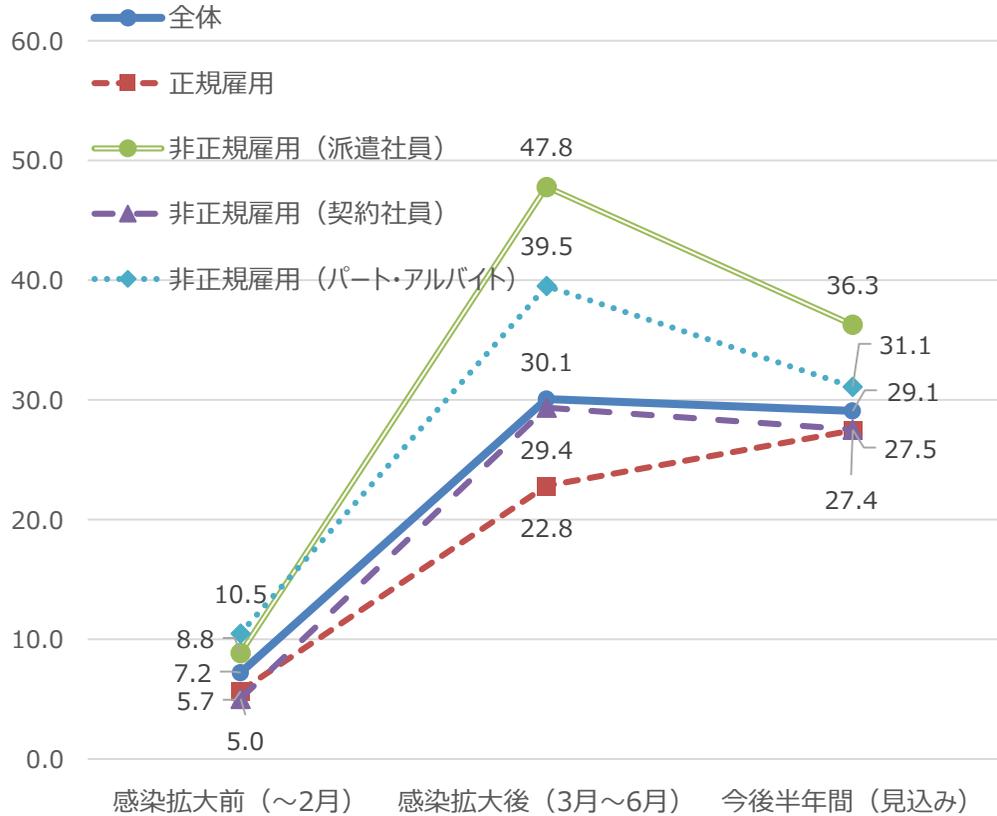
<感染拡大防止の取組みの実施状況【企業規模別】>

| 感染拡大防止の取組み | 大企業 | | | 中小企業 | | | 小規模事業者 | | |
|---|-------|----------|-------|-------|----------|-------|--------|----------|-------|
| | ～4/7 | 4/8～4/13 | 4/14～ | ～4/7 | 4/8～4/13 | 4/14～ | ～4/7 | 4/8～4/13 | 4/14～ |
| 休業・休店 (一部営業所・店舗の休業・休店を含む) | 10.0% | 18.4% | 22.2% | 7.7% | 16.6% | 20.5% | 6.7% | 13.4% | 15.7% |
| 従業員の一時帰休 | 5.5% | 11.7% | 15.0% | 5.9% | 12.4% | 16.4% | 2.8% | 6.3% | 6.3% |
| テレワーク(在宅勤務) | 20.5% | 40.0% | 46.5% | 8.5% | 20.5% | 26.9% | 8.0% | 14.7% | 16.6% |
| 有給休暇の取得奨励 | 14.5% | 16.8% | 19.0% | 7.7% | 11.9% | 14.8% | 3.0% | 3.9% | 4.1% |
| 時差出勤 | 26.8% | 29.5% | 30.6% | 13.1% | 19.6% | 22.4% | 6.9% | 10.1% | 9.9% |
| 自転車・自動歩通勤の推奨 (バスや電車等、通勤時に混雑する場所を避ける) | 7.0% | 11.0% | 12.8% | 5.3% | 9.7% | 11.5% | 5.0% | 6.5% | 7.1% |
| 外部の人と対面するような会合や出張の自粛 | 28.1% | 34.8% | 36.2% | 15.0% | 21.4% | 23.3% | 9.1% | 14.4% | 14.7% |
| 社内で社員同士の接触(会議や社内研修等)を減らす | 31.4% | 39.6% | 41.8% | 14.1% | 22.6% | 25.8% | 5.4% | 9.1% | 8.8% |
| 社員の飲み会の自粛 | 40.8% | 46.3% | 46.3% | 22.8% | 26.7% | 27.6% | 9.5% | 12.5% | 11.6% |
| 営業時間の短縮 | 9.9% | 14.4% | 15.8% | 7.6% | 12.5% | 16.5% | 6.7% | 11.4% | 12.9% |
| イベント・セミナー等の開催の自粛 | 21.8% | 26.3% | 27.3% | 9.9% | 13.1% | 13.5% | 6.5% | 8.6% | 8.4% |
| その他 | 3.4% | 3.6% | 3.7% | 2.9% | 3.6% | 4.1% | 3.0% | 4.1% | 3.9% |
| 特に実施していない | 29.7% | 16.5% | 13.3% | 48.2% | 29.3% | 23.6% | 64.2% | 48.3% | 44.6% |

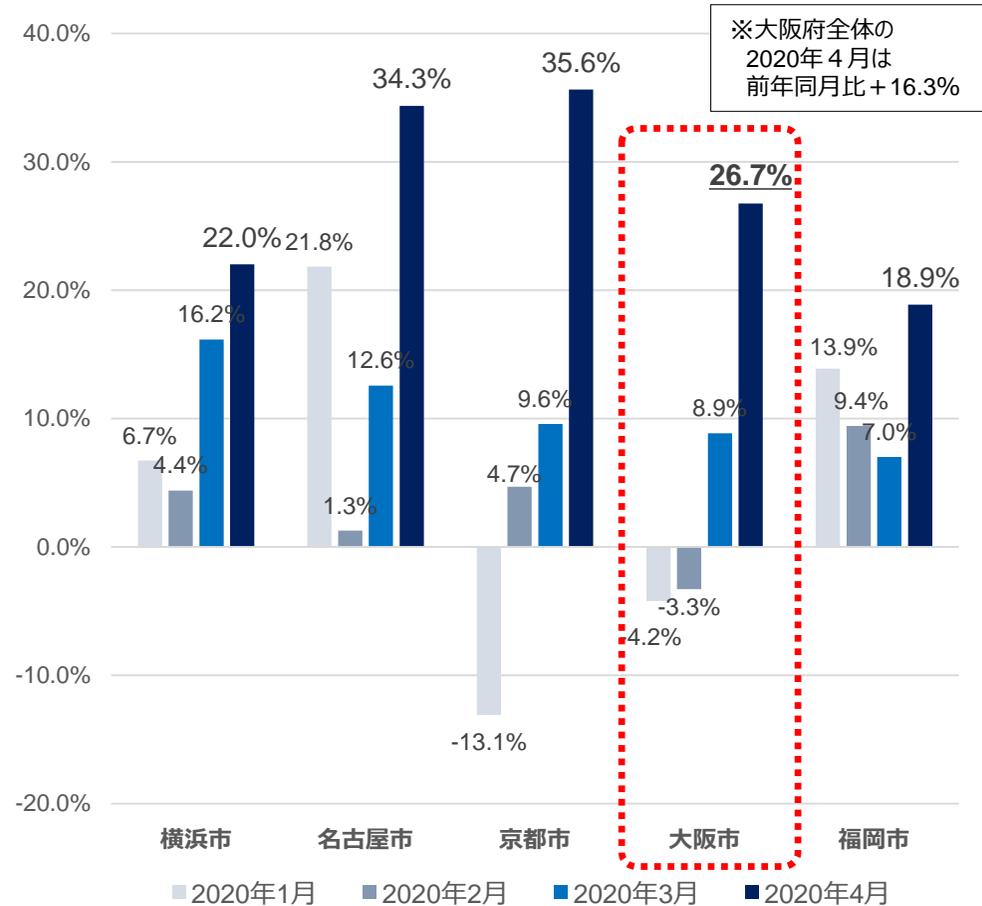
出典：大阪府『新型コロナウイルス感染症の影響に関する府民アンケート』より作成

- 今回のコロナ禍では特に**非正規雇用者の収入減が顕著**であり、生活保護の利用を始めた世帯も大幅に増加するなど、**貧困につながる課題の顕在化**が見られる。

雇用形態別収入が減った人の割合（大阪府）



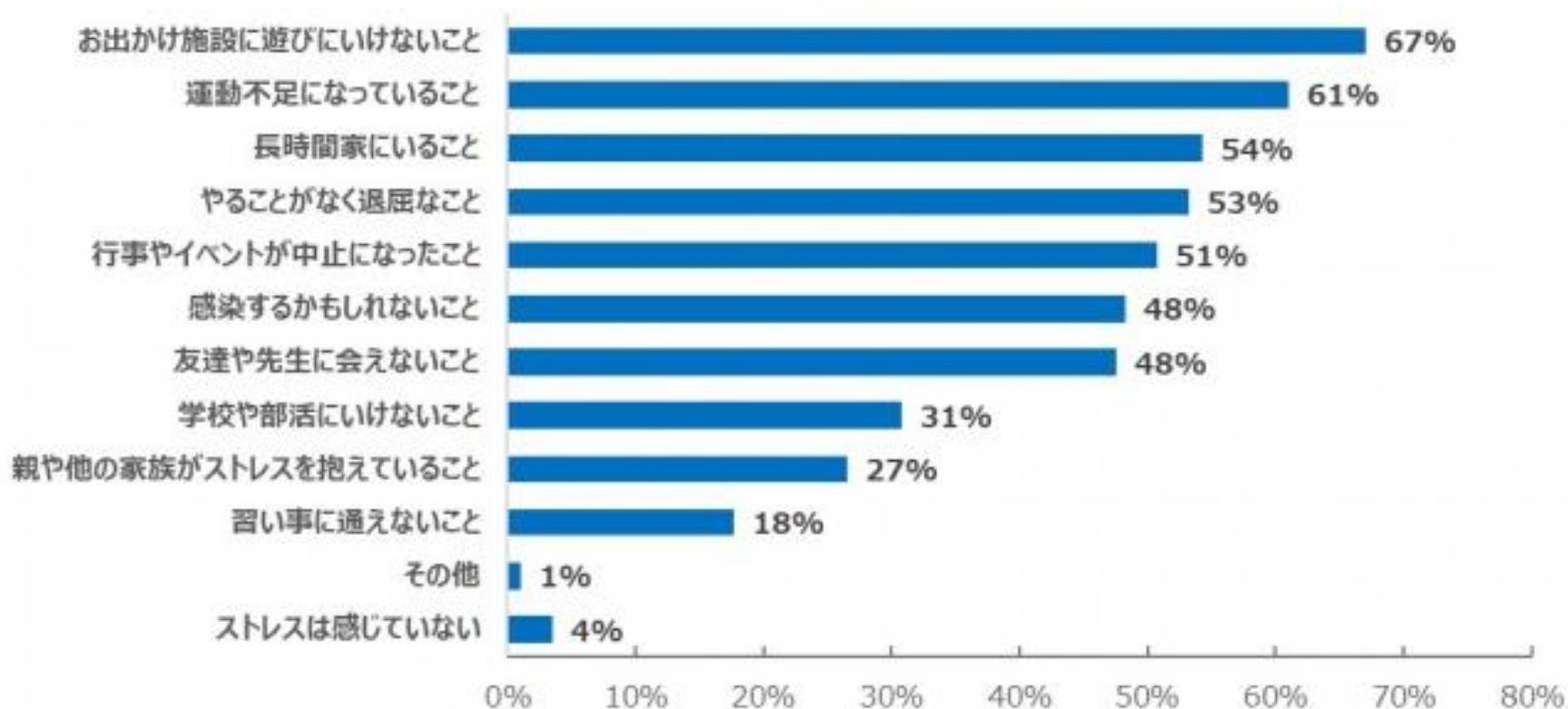
生活保護開始世帯数の推移（前年比）



出典：大阪府『新型コロナウイルス感染症の影響に関する府民アンケート』、厚生労働省『被保護者調査』

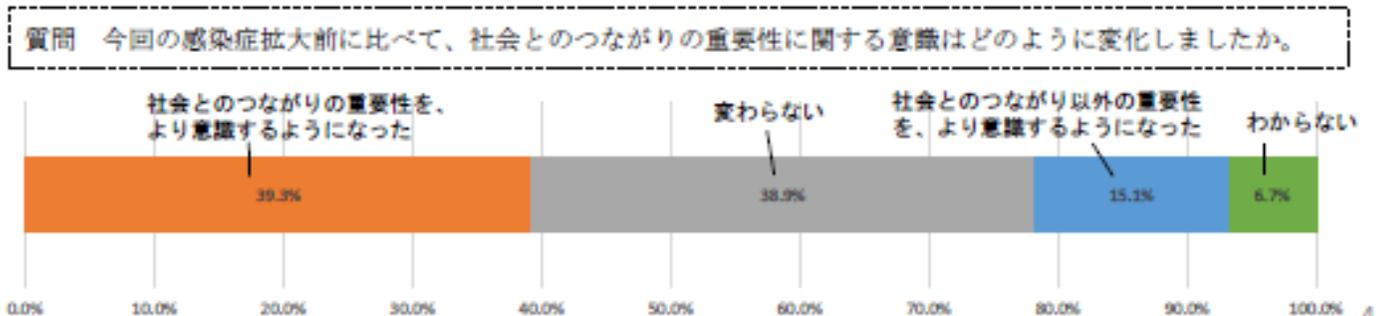
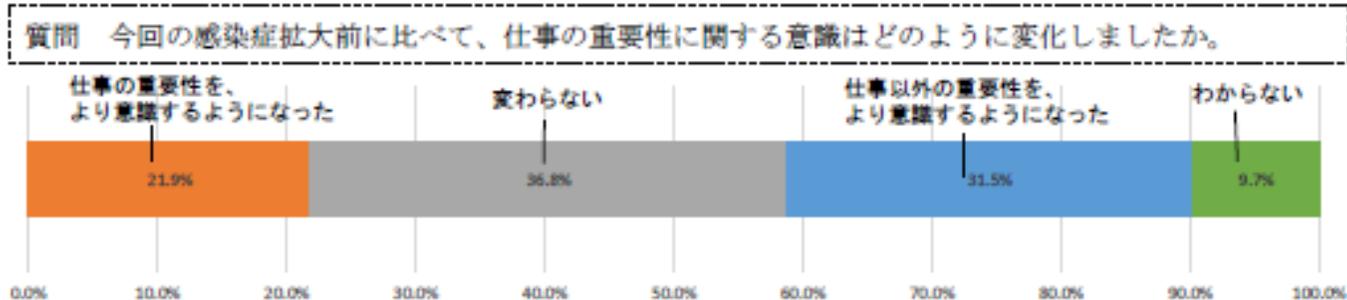
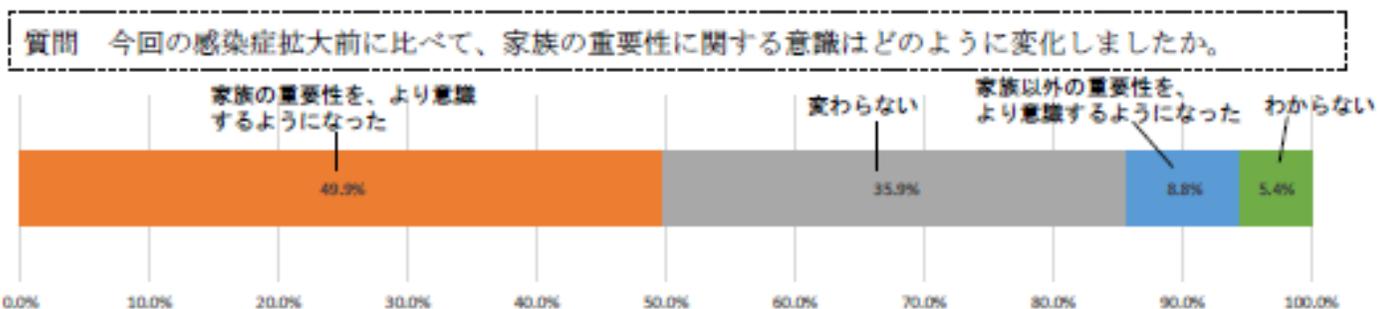
- **教育分野においても授業のオンライン化などの取組みが進んだ一方、コロナの感染が広がる中で休校や行事・イベントの中止、オンライン化に伴う新たなストレスが生じており、引き続き教育環境維持の取組みが必要。**

子どもにとっては何がストレスになっていますか（複数回答）（n=282）



出典：子どもとお出かけ情報サイト『いこーよ』調べ

- 家族やコミュニティに対する意識の変化を見ると、感染拡大前に比べ、“家族の重要性”、“仕事以外の重要性”、“社会とのつながりの重要性”をより意識するようになっており、**地域社会の中で支えあい、つながりの必要性が高まっている。**



意見交換②

ステークホルダーによる自発的な行動に向けて

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



<基本的な考え方>

- SDGsは2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」（以下「アジェンダ」という。）のもと、“誰一人取り残さない”という共通理念に沿って、大胆かつ変革的な手段により持続可能な社会の実現をめざすもの。
- アジェンダでは、すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行するとしており、**SDGsは行政や企業だけでなく、個人を含めたあらゆるステークホルダーが理解し、行動していくことが重要**となっている。
- 特に、2025年に開催される大阪・関西万博は、そのメインテーマとして「いのち輝く未来社会のデザイン」を掲げている。これはまさにSDGsが達成された社会をめざすものであり、**大阪は万博の地元都市として、世界の先頭に立って「SDGs先進都市」の達成に貢献していく必要がある**。
- 以上を踏まえ、2030年の目標年次に向け、**大阪にゆかりのあるあらゆるステークホルダーの自発的な行動を促すために有効と思われる取組みについて議論する**。

<ステークホルダーの声>

◆ 若者ワークショップ（8/7(金)実施、学生や若手社会人など20名が参加）での意見

- SDGsを自分事化するために
 - ・ SDGsという言葉自体を難しいと感じる人もいる。「SDGs = 面白いもの」として、ハードルを下げる必要。
 - ・ **SDGsを身近に感じられるメッセージが必要。**
(SDGsは途上国だけの問題と思われがち。コロナ禍はもちろん日常の些細な問題困りごとにもSDGsが密接にかかわっている。)
 - ・ また、記憶に残るよう、**簡潔でわかりやすくまとまっている方が良い。**
 - ・ 日常生活の中で**自然と行動できるようなれば自分事化したこと**になると思う。
 - ・ **SDGsのワードを使わない**（海をきれいにしようなど具体的な動きで伝える。ロゴなどで伝える。)
- 広く知ってもらうために
 - ・ **拡散に向けては、SNSやYouTube等の媒体を活用してはどうか。**
 - ・ 高齢者などSNSの認知度が低い世代に対しては、**SNS以外（テレビ、新聞、ポスターなど）での周知も必要**ではないか。
 - ・ 若い世代から上の世代に積極的に伝えていくことも重要。
- 大阪らしさや大阪ならではの取組み
 - ・ 大阪弁やお笑いと連動した発信（キャッチコピーを大阪弁にした発信）。
 - ・ 通天閣やたこ焼きなど大阪ならではのものに着目して親しみ感をだしてはどうか。

◆ 企業ヒアリングのなかで出た意見

- 企業によるSDGsの取組みは、現状バラバラに行動しているためインパクトが不足している。**統一した考えのもと一緒にやっている感ができれば、広がりが見られる**と思う。
- **難解でなく、楽しいものと思ってもらうことが大切。**また、**企業として、特に大阪においては、「SDGsをやると何の得になるのか」を意識**させることで、さらにSDGsに取組むモチベーションにつながるのではないかと。

- これらの声を受け、SDGsの理念をわかりやすく表した共通メッセージとして、（仮称）「大阪SDGs行動憲章」を策定し、大阪にゆかりのあるあらゆるステークホルダーの自発的な行動を促していくことを検討。

大阪SDGs行動憲章（案）

《前文》

わたしたちは、2025年大阪・関西万博の地元都市として、「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」を目指す“持続可能な開発のための2030アジェンダ”（SDGs）の理念に賛同し、あらゆるステークホルダーとの連携・協調のもと、未来に向けた大阪の持続的な成長に寄与するとともに、誰もがSDGsを意識し、自律的に17のゴールの達成を目指す「SDGs先進都市」を実現します。

（一人ひとりの自由な発想で行動）

1. SDGsの達成に向け、大胆な社会の変革を恐れず自由な発想で行動します。

（目標を意識した行動）

2. 2030年に住みたい大阪を自分なりにイメージして行動します。

（周困との連携による行動）

3. 国内外の誰とでもコミュニケーションをとりながら、お互いの良いところを学び合います。

※視点

① 分かりやすい表現 ②印刷物などでの見やすさ、使いやすさ（あまり長くしない） ③ 大阪らしさ、大阪ならではの